



昨年 12 月 7 日、すす払いを行いました。皆様のおかげで大変きれいになりました。ご協力ありがとうございました。集合写真には写っていない方もいらっしゃると思いますが、ご参加いただいた皆様に心より感謝申し上げます。



明 月

みょう
げつ

【みょうげつ】

第 162 号

〈発行〉

令和 8 年 1 月 20 日

〈発行所〉

明法寺

安佐町久地 5627

電話 837-0348

FAX 837-2770

〈編集〉

寺尾 仁



住職一語

新しい年を迎えました。今年もよろしく願います。
さて、伝道掲示板に掲げたのは、本願寺第八代蓮如上人のお言葉です。

ある時、蓮如上人にこう悩みを打ち明けた人がいました。

「私は、穴だらけのかごに水を汲むようなもので、教えを聞いているときはありがたく思うのですが、その場を一步出ると、すぐに元の心に戻ってしまいます」

それに対し、蓮如上人は次のように答えられました。

「かごをそのまま、水の中につけなさい。わが身を仏法の水にひたしておけばいいのだ」

(『蓮如上人御一代記聞書』意識)

私たちもお寺の本堂でお聴聞をしている時は、「まことさうよう、有り難いことよいう」という尊い気持ちになります。

しかし、いざ本堂を出て階段を降り、靴を履いて歩き出すとどうでしょう。かご講師の話はすっかり忘れ、「今夜の晩御飯は何にしようかな」と世間のことが心の中心

に戻ってしまいます。これは皆様からよくお聞きすることですし、私自身もまさにその通りです。

しかし、「忘れても良い」と思っているのです。かごですくった水は漏れてしまっていますが、かご自体は水に濡れています。繰り返し繰り返しお聴聞をさせていただく中に、いつの間にか仏さまの教えが身体全体にしみてまいります。

そしてもう一つ、味わいたい点があります。かごで水を「汲もう」とする姿についてです。

私たちは常に自分中心に物事を考え、「自分のものさし」で物事

